

第20講 特殊な「拡張動詞」・・・「使知動詞」

本講では、「拡張動詞」のうち、特別なものを見ます

I「使役動詞」と呼ばれるものと、II「知覚動詞」といわれているものです
両者あわせて、ここでは仮に「使知動詞」と命名しておきます

I 「使役動詞」

「使役動詞」とは、《「人に～させる」という意味が基本の特別な「拡張動詞」》です

主な「使役動詞」には、「have」「make」「let」という「三代表」に加えて「get」があげられます

「have→もつ」「make→つくる」「get→得る」という次元からの脱却です

「使役動詞」は、「拡張動詞」の一種ですから、
「目的役」と「補役」を従え、そのあいだには、「主述関係」があります

使役動詞 + **目的役(①)** + **補役(②)**

主要な意味は、「①（主に「人」）に②をさせる」です

ひとことで「～させる」といっても、

「have」は「汎用的」、「make」は「強制的」、「let」は「許可・容認的」で、「get」は「一般的・説得的」といわれますが、このような細かな分類に固執するのは相当高いレベルに到達するまでは避けるのが得策で、ここでは、抽象的な分類よりも、構造に意識的になじむこと（例文の精査・検討）が重要と考えます

《「①」に「②」させる》ということは、

「①」は「人的要素」の場合が多く、

「②」は「名詞系補役」も「形容詞系補役」も可能です

この場合の「名詞系補役」になるのは「名語句」しかありませんが、「形容詞系補役」は様々ありますので、以下にまとめを再々掲しておきます

「補役」になる形容詞系のまとめ

形容詞系

「補役」になる

- ①形容語
- ②不定詞の形容詞的用法
- ③能動分詞（現在分詞）の形容詞的用法
- ④受動分詞（過去分詞）の形容詞的用法
- ⑤完了分詞（過去分詞）の形容詞的用法
- ⑥形容句
- ⑦形容詞化された副語

わざわざ「使役動詞」が強調される従来からの空虚な動機や理由としては、「形容詞系補役」のひとつである「不定詞の形容詞的用法」の場合、「to」がない、原形のままの「原形不定詞」とよばれるものが使用されることにあるようですが（実は瑣末な現象一端に過ぎない）、それ以上に、「形容詞系」全体が「補役」になれることを認識して、「拡張動詞」全般の「目的役と補役の主述関係」をおさえることが重要です

「have」「make」「let」に「get」の各「使役動詞」において、「形容詞系」①～⑦の全てが使用可能というわけではありません

さらに、「⑧名補役」を含めて、可能な「補役」を表にまとめますと、次のようになります（初めのうちは、無理に全部覚えようとするのではなく、×印に留意する程度にしてください）

「補役」候補		h a v e	m a k e	l e t	g e t
形容詞系補役	①形容語	○	○	○	○
	②不定詞	原形不定詞	原形不定詞	原形不定詞	to不定詞
	③能動分詞	○	×	×	○
	④受動分詞	○	○	×	○
	⑤完了分詞	—	—	—	○
	⑥形容句	○	—	○	○
	⑦形容詞化副語	○	—	○	○
⑧名補役		○	○	×	×

「—」は、意味的に必要ないか、「辞書」中に使用例が見当たらないことを示しています

以下、例文をあげます

「_____」（一重線）は「目的役」で、「_____」（二重線）は「補役」です

「辞書」で丹念に調べ上げてください（表の数字と例文の数字は一致しています）

「h a v e」の例文

強制的な意味はなく、「そのような状態に持っていく段取り」に視点があり、「～させておく」「～してもらう」「～される」等の「意識」がなされますが、意識や抽象的な分類よりも、「補役の形態」や、「目的役」と「補役」の「主述関係（能動か受動か等）」を確認しながら、例文の実質的意味を考えてください（以下の「使役動詞」も同様）

- ① You must have your car clean.
（車をきれいにさせなければならない）

- ② You should have your son cut his hair.
（息子に息子自身の髪を切らせるべきだ）

You should have a barber cut your hair.
（床屋にあなた自身の髪を切らせるべきだ→切ってもらうべきだ）

- ③ Taro couldn't have them sleeping.
（彼らを寝かせておくことができなかった）

- ④ You have to have your hair cut.
（あなたの髪を切ってもらわなければならない）

- ⑥ She had her foot in the mud.
（足を泥の中に入れさせてしまった）

- ⑦ They had the guest out.
（その客を外に出した）

- ⑧ I will have you a doctor.
（あなたを医師にさせるつもりだ）

「m a k e」の例文

「強制的」な意味をもち、「無理に～させる」ような訳になります

① They made her sleepy.

(彼女を眠くさせた)

② She made him be quiet.

(彼を静かにさせた)

She made him go home.

(彼を家に帰した)

「原形不定詞」の『文。』を「受動態」にすると、「不定詞」が「原形」でいる理由がなくなり、「to不定詞」(の「副詞的用法」)に戻ります
(「made」という「受動分詞形容補語」の具体的状況説明の「副詞的用法」)
→ He was made to go home by her.

④ He made himself understood in Japanese.

(自分自身を日本語で(他人に)理解させた)

⑧ They made him captain.

(彼をキャプテンにした)

「let」の例文

「自由に～させておく」という「自由意志の尊重」の意味合いがあります

① I want to let the bird loose.

(その鳥を自由にさせることを望んでいる) (発音注意!)

② They let Taro go abroad.

(タローを海外に行かせた)

⑥ She let us out of her house.

(私たちを彼女の家から外に出してくれた)

⑦ He let me through.

(私を通してくれた)

「g e t」の例文

広範一般的な使役をあらわしますので、「一を～にする」「一を～させる」「一を～してもらう」「一を～するように説得する」等、状況に応じた訳となります

- ① We got the room clean.
(部屋をきれいにした)
- ② She got her children to wash their shoes.
(子供たちに自分たちの靴を洗わせた) 注意!「補役」は「to不定詞」
- ③ He got his machine running.
(機械を始動させた)
- ④ I got my homework finished.
(宿題を終わらせた)
- ⑤ They got Hanako gone.
(ハナコを追いやった)
- ⑥ She got her children to bed.
(子供たちをベッドに行かせた)
- ⑦ He got her book back.
(彼女の本を戻した)

「不定詞の形容詞的用法補役」は、「原形不定詞」ではなく、「to不定詞」です

II 「知覚動詞」

「知覚動詞」は、人間の五感に関する「動詞」です

「知覚動詞」も「拡張動詞」の一種ですが、「使役動詞」と同様に、「形容詞系補役」のひとつに過ぎない「不定詞の形容詞的用法」の場合に「to」がない「原形不定詞」が使われるという特徴が過度に強調されております(これも、「構造把握」の観点からは瑣末な問題です)

「使役動詞」と同様、「目的役と補役の主述関係」を確認することが重要です

主な「知覚動詞」には、「see」「hear」「watch」「feel」「notice」等があります

以下に、代表として「see」の例文をあげます

「_____」(一重線)は「目的役」で、「_____」(二重線)は「補役」です

「目的役」の動作を「補役」であらわし(そこには「主述関係」がある)、その関係を「知覚動詞」が支配しているという「構造」を認識してください

「原形」が「最初から最後まで動作」を示し、「能動分詞」が「部分的動作」を示すといわれています

「see」の例文

② We saw him close the door.

(彼がドアを閉める様子を終始見ていた)

③ We saw him closing the door.

(彼がドアをしめているところを一部ちらっと見た)

④ We saw the door closed by him.

(ドアが彼によって閉められるのを見た)

② → He was seen to close the door by us.
「知覚動詞」の『文。』を「受動態」に書き換えると、「不定詞」が「原形」であることの理由がなくなり、「to不定詞」(の「副詞的用法」)に戻ります
(「seen」という「受動分詞形容補語」の具体的状況説明の「副詞的用法」)

③ → He was seen closing the door by us.
「能動分詞形容詞」が「補役」の場合を「受動態」に変えても、形のうえでは変化はありませんが、「seen」の具体的状況内容を説明する「副詞的用法」になったと考えられます

「他動詞」の「詳細な分類」が終わったところで、次講では、「自動詞」のうちの、特別な「補完動詞」をみてみましょう(・・・「推量」という広範な概念の最初の認識ですね)